

国際保全パートナーズ

UAPACAA

Unified Action for Promoting Animal Conservation in Asia and Africa

459-1-201 Nagae, Hayama-machi, Miura-gun, Kanagawa 240-0113, Japan

Phone: +81(70)4486-6609

2019年度（2019年8月～2020年7月）事業報告

法人の名称 NPO法人UAPACAA国際保全パートナーズ

<まとめ>

- ・2020年3月から世界的に広がった新型コロナウイルス感染症のパンデミックに伴い、当法人の活動にも各種の影響があった。詳細は活動方針にかかる報告に述べる。なお事務局長の岡安は、カメルーンにおけるSATREPS業務調整専門家任期途中の4月に退避一時帰国となり、そのまま任期満了となった。
- ・2020年7月5日にオンライン（Zoom）にて理事会を開催し、理事7人のうち6人の出席（うち1人は書面表決）を得て成立。2020年度（2020年8月～2021年7月）事業計画と予算について承認を得て、臨時総会に上程した。また、コロナ禍の先行き不透明な中で支出を抑えるため、事務所を代表理事の岡安の自宅に移す提案を行い、理事会にて承認を得て変更登記手続きを行った。
- ・理事会の表決に従いみなし臨時総会を開催し、正会員12人全員の賛成を得て、2020年度事業計画と予算が成立した（2020年7月10日）。

<事業活動方針にかかる報告（2019年8月～2020年7月分）>

カメルーン、ブータン、およびコンゴ民主共和国の連携先とプロジェクトを推進する。

「2 事業内容」に沿って、以下に報告する。

① アフリカ熱帯雨林の保全と野生動物保護支援に関する事業

ア カメルーン共和国南東部州の大型類人猿と生物多様性の保全活動

1. ロベケ国立公園の大型類人猿エコツーリズム振興支援
2. ロベケ国立公園生物多様性モニタリング

- ・Project Agreement に従い、WWF カメルーンのロベケチームが国立公園事務所と協働しながら、活動を推進した。3月中旬より、カメルーン政府がコロナパンデミックの拡大防止策として、国境を封鎖するとともに国内の都市間移動も制限したため、人と物資の移動が困難になっている。
- ・エコツーリズム振興では、下記ランドクルーザーが国立公園に到着し、観光客が宿泊するキャンプや国立公園事務所、また国立公園内への移動が格段にスムーズに行えるようになった。ただし、これもコロナ禍で世界的な観光業の中断があり、先行きが見通せない状況にある。
- ・ゴリラの人づけによるエコツーリズム振興策については、引き続き Pont Casse 地区のトランゼクトでの観察を、国立公園レンジャーチームが継続した。2019年9月～2020年3月にかけては、ベッドは毎月コンスタントに観察されているが直接観察は少なく、現地での技術指導の必要が高い。
- ・2019年11月に、ヤウンデ第一大学の教授と WWF カメルーンの担当者を交え、ゴリラの人づけ推進のために大学院の学生を投入する検討を行った。2020年初頭から3月まで、第1回目の派遣を

行ったが、その後、コロナ禍の影響で都市間移動が制限され、再訪が遅れている。

- ・ 国立公園内の定点モニタリングは、コミュニティの若者を採用しているおかげで、継続的に観察が進められている。
- ・ UAPACAAからは、2020年5月に Ready for の支援者の現地訪問を予定していたが、コロナ禍の影響で国際移動がストップし延期を余儀なくされている。またこれに伴い、期待された大口寄付もペンディングとなっている。パンデミックの収束次第で、2021年5月の実施を予定している。

3. 国際武装集団によるゾウ密猟対策への支援（クラウドファンディング）

- ・ 2019年7月に TOYOTA ジブラルタルと WWF カメルーンが交渉を行い、Ready for の資金で購入するランドクルーザーが発注され、8月に日本から送金を行った（支出は7月末払金として2018年度）。ドゥアラ港への到着は11月初旬であったが、免税措置の申請に時間がかかり、WWF カメルーンへの納車は2020年1月となった。2月にロベケプロジェクトのマネージャーが現地へ運搬し任務に就いた。6月20日に Ready for のプロジェクトサイトに最終報告をアップした。
- ・ ゴリラの人づけ予定の Pont Casse 地区のパトロールを強化した結果、以前はあまり観察されなかったマルミゾウの観察頻度が上がっている。他方、密猟防止のパトロールも継続されているが、国立公園の西側地域にブッシュミート猟のワナ等が集中して発見され、脅威が残存している。

4. 外部資金による研究と保全活動

- ・ 保全研究活動（SATREPS）；カメルーン側メンバーの積極的な活動参加もあり、活動1～3までのチームが、フィールド訪問（調査）を行った。学生の投入も活発に行われ、日カメの協働体制が整いつつある。ただし、日本政府の方針でアフリカの日本人は一時退避となっているため、プロジェクトは4月中旬でストップしている。岡安が業務調整専門家の任務を終えたため、UAPACAA の活動としては今期で終了した。

イ コンゴ民主共和国（DRC）マイ・ンドンベ州ボロボ郡におけるボノボの保護活動

1. ボノボ生息域における生物多様性保全・再生にかかる研究と実践
 2. ボノボ生息域に居住するコミュニティの生活向上支援
- ・ 2020年7月8日に JICA 草の根支援事業に、「新型コロナウイルス感染症流行に伴う観光業の変容が、Mbali コミュニティへもたらす影響を評価し、ポストコロナにおける熱帯生態系保全と持続可能な農村開発の在り方を探る」というタイトルで、事業提案を行った。結果は10月で、採択されれば2021年6月からの開始を目指す。

② 南アジアの亜熱帯林保全と野生動物保護支援に関する事業

- ア ブータン南部「国境を越えたマナス保全地域（TraMCA）」の生物多様性保全事業
 1. TraMCA ランドスケープの大型哺乳類モニタリング支援
 2. TraMCA ランドスケープの生物多様性調査支援
 3. ブータンの若者向け環境教育事業開発
- ・ ラッシュジャパンの助成スキーム（上限200万円）を活用した「Young Bhutanese Birders (YBB) プロジェクト」の環境教育支援企画を WWF ブータンと再検討し、2020年2月末のメ切に向け準備

して応募した。しかし、コロナ禍のために事務局が閉鎖され、現在も連絡がつかないままである。

- ・ブータンの新しいテーマとして、経済発展に伴う淡水流水系の汚染と淡水生物多様性の劣化を防止する活動を提案された。8月～9月にメ切がある助成金への申請を視野に内容を協議するとともに、分かり易いテーマをクラウドファンディング企画にまとめることを検討している。

アフリカやアジアの生物多様性保全に関する情報発信を行い、国際保全活動の普及啓発に貢献する。

- ・クラウドファンディングのリターンとしての位置づけもあり、会員専用メルマガの発行を本格化した。2ヵ月に1度を目途に、ロベケのランドクルーザー支援の報告、UAPACAAの事務局便り、特集、イベント告知などを取り交ぜた内容とした。創刊号は詳しい記事をpdfにして、添付ファイルとして配布したところ、クリック率が低かったため、2号からは全文、本文にて紹介している。4号までは予定通り発行できたが、その後のコロナ禍で岡安の緊急退避などが重なり、5号目は大幅に遅れることとなった。
- ・並行して、Ready for のプロジェクトページで、ランドクルーザー調達の進捗を報告し、支援者の興味の継続を図った。注目が高かったのは、ランドクルーザー納車とロベケへの出発の話題で、YouTube にアップした動画の視聴率が、ほぼ支援者数に近い数にアップした。
- ・ホームページの導線が、新しい記事やブログ、SNS とのリンクが弱いので、改訂を予定している。
- ・毎年4月～5月に行われる葉山芸術祭に参加し、「ゾウのうんこで紙を漉く」ワークショップを行ってUAPACAAの知名度向上を図る予定だったが、コロナ禍のために中止となってしまった。

特例認定NPO法人認可を、期末に申請できるよう準備を進める。

- ・認定NPO法人申請に向けて法人の就業、旅費、役員報酬規則等を整備し、理事会の承認を得た。
- ・コロナ禍の影響で2020年3月以降は申請準備が進められず、期末段階での申請には至らなかった。
- ・神奈川県の特例認定NPO申請説明会に出席し、9月末メ切の「県指定NPO法人申請」を行い、2021年3月に認可が受けられれば、「認定NPO法人申請」に進む手順が確認された。審査が順調に進めば2021年9月に認可され、2021年からの当法人への寄附に対して免税措置が受けられるようになる。
- ・2020年7月末現在で、正会員13人、賛助会員46人（55口）となっている。クラウドファンディング支援から賛助会員登録に進んだ方も6人あり、今後のプロモーションで追加登録を目指す。

<その他の事業>

① 書籍の出版・販売

今期は時間的な余裕がなく、出版・販売は行っていない。

※ 今期予算進捗（2019年8月～2020年7月）に関して、決算報告書と監査報告書を添付する。

以上